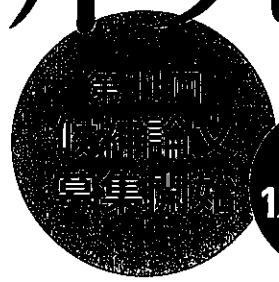


29-113

各自応募
申請書はダウンロード
推薦書要(指定なし)
※自薦可

社会倫理研究 奨励賞

11TH



締切
2017年
12月1日必着
(随時受付中)

応募について

応募資格

原則として論文公刊時に40歳未満

応募方法

応募用書式ファイル(他薦方式か自薦方式のいずれかを選択)を社倫研Webページからダウンロード・印刷してご記入の上、応募論文を同封して、下記住所までご郵送下さい。

- 他薦方式: 本人以外の人物による推薦書を添付すること
- 自薦方式: 本人による800字以内の要約を添付すること
- *他薦・自薦で審査結果が左右されることはありません。

宛先

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
南山大学社会倫理研究所 社会倫理研究奨励賞係

審査の過程で当研究所が得た個人情報、本賞選定の目的以外に使用されることはありません。なお、個人情報取扱の詳細については、「南山大学個人情報保護に関するガイドライン」に準拠します。

審査について

審査対象となる著作物

2016年12月1日から2017年11月30日までに日本語で公刊された論文

審査方法

第11回社会倫理研究奨励賞選定委員会(委員長:辻中豊[筑波大学教授])の協議によって審査します。

審査結果の公表

受賞者本人へ通知の上、受賞者の氏名および受賞論文名を2018年2月上旬に社倫研Webページにて公表します。

副賞について

授与される賞と副賞(給付研究奨励金)

- ◎社会倫理研究奨励賞 1名(30万円)
- ◎審査員賞 1名(3万円)

授賞式等

2018年3月13日に授賞式を開催し、受賞者には記念講演を行ってまいります。また、審査結果と記念講演内容は2018年5月発行予定の「時報しゃりんけん」(第11号)に掲載されます。なお、当日の授賞式の様子は写真撮影の上、社倫研Webページ等のインターネット媒体にも公開されますことをあらかじめご了承下さい。

「社会倫理研究奨励賞」とは?

南山大学社会倫理研究所(社倫研)が、若手研究者による社会倫理分野における優れた研究に対して授与する賞です。

社倫研は、細分化した学問が対応し切れない錯綜した現代社会の問題に対して、人文社会科学の叡智を結集して総合的かつ包括的に取り組み、「人間の尊厳」を回復する方法を探究する研究所です。その活動の一環として、21世紀を生きる若い研究者の意欲的な研究活動を奨励し、現代のニーズに応えることを目指して、この賞を設けました。

社会倫理研究は、いわゆる応用倫理学に限らず、様々な領域の専門研究を通じて、社会で生じる解決困難な倫理的問題に挑戦する学術的探究全般を指します。本賞では、問題系・分野・方法論を制限せず、学術性とアクチュアリティの両軸で優れた研究すべてが対象となります。(詳しくは社倫研Webページをご覧ください。)

歴代受賞論文

- 第1回: 植原亮 「スマートドラッグがもたらす倫理的問題—社会と人間性—」
- 第2回: 吉永明弘 「環境倫理学」から「環境保全の公共哲学」へ—アンドリュー・ライトの経緯を導きの糸に—
- 第3回: 大庭弘毅 「ルワンダ・ジェノサイドにおける責任のアポリア—PKO指揮官の責任と「国際社会の責任」の興隆—」
- 第4回: 該当論文なし
- 第5回: 玉手慎太郎 「「基礎的ケイパビリティの平等」の定式化とその含意—センの規範理論の明確化のための一論考—」
- 第6回: 湯澤(下谷内)奈緒 「国際刑事裁判のディレンマの政治構造」
- 第7回: 村上玲 「宗教批判の自由と差別の禁止—イギリスにおける神聖護照から宗教的情意動向への転換に関する考察—」
- 第8回: 任貞美 「介護職員の虐待認識に基づいた高齢者虐待定義の再構築への試み—「準虐待」の構造と特徴に着目して—」
- 第9回: 佐々木拓 「依存行動への責任を限定する—レヴィの自我消耗仮説と規範的統制原理の適用可能性—」
- 第10回: 濱村に 「「休戦ライン」としての核不拡散体制—衝突する規範の妥協と二重基準論争—」

南山大学社会倫理研究所

<http://rci.nanzan-u.ac.jp/ISE/> ise-office@ic.nanzan-u.ac.jp